

IV. 「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第2次）」の取り組み状況

ライフステージに着目した施策の展開

1. すべてのライフステージにおける取り組み

(1) 平成30年度の実績

「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第2次）」に基づき、歯科口腔保健の啓発を実施。

① MOSAIC大観覧車のイルミネーション、KOBEライトアップDAY（11月8日）**新規**

いい歯の日に合わせて、神戸市内を白くライトアップするとともに、MOSAIC大観覧車にて、「11月8日はいい歯の日。かかりつけ歯科医で受診を。」と啓発。

② 「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第2次）」の啓発 **新規**

◆KOBEグー（6月号）

「いつまでも自分の口で食べるために」をテーマに、ライフステージに応じた歯と口の健康づくりについて啓発。

◆中央図書館での展示（6月8日～26日）

「大切な歯のために～歯から健康」をテーマに、図書の展示やポスター掲示にて啓発。

◆広報紙KOBE（6月号）での啓発記事

「生涯、自分の口でおいしく食べるために、歯と口の健康を保とう」と題して、歯周病・むし歯から全身への影響、かかりつけ歯科医への定期受診の必要性などについて啓発。

◆出前トーク

「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第2次）の推進」をテーマに、地域からの依頼に応じて、ライフステージに応じた取り組みについて啓発。（36回、1,423人）

③ オーラルフレイルの啓発

広報紙KOBE（1月号）、国保医療費通知（9月、3月）にて、滑舌低下、食べこぼし、かめない食品の増加など、口の機能が低下した状態を「オーラルフレイル」ということ、放置するとフレイルや要介護につながるため早期発見が重要であることを啓発。

④ 人材育成

在野の歯科衛生士を育成し（登録者数39人）、地域に派遣しライフステージに応じた歯科健康教育を実施。市民が自ら、むし歯や歯周病予防に取り組むことを支援。

(2) 令和元年度の取り組み

① 広報紙KOBEや中央図書館での歯科口腔保健啓発

② 神戸医療産業都市における取り組み

◆第7回ヘルスケア健康セミナーの開催（4月7日）**新規**

「元気の要は頭・口・足の健康から」と題して、オーラルフレイル予防について講演を実施（参加190人）。

◆くちビルディング選手権 in 078KOBE（4月28日）**新規**

グッドネイバーズカンパニーと協働で、口の機能に着目した哺乳ビンを使ったゲームを実施。

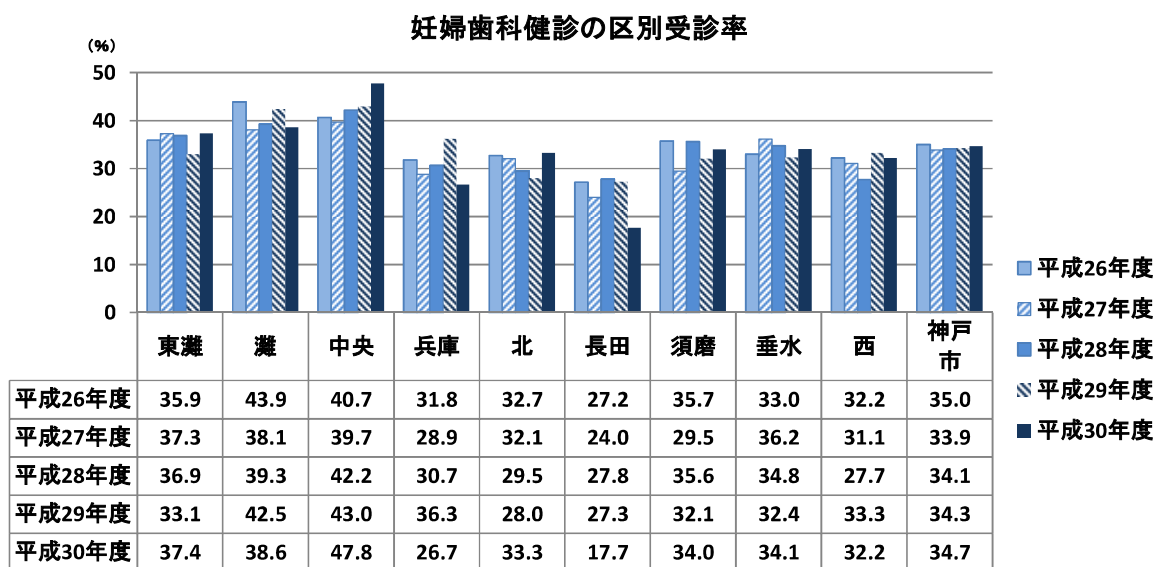
2. 妊娠期

目標：生まれてくる赤ちゃんのため、両親が自分の歯と口の健康を守る

(1) 平成 30 年度の実績

① 妊婦歯科健診

平成 30 年度の妊婦歯科健診受診者は、3,967 人／11,429 人（受診率 34.7%）。
29 年度より 0.4 ポイント増加。



別受診率: 歯科医療機関の所在別別受診者数 / 居住別別別受診者数

神戸市保健事業概要

② こうべ子育て応援メールの配信

妊婦や子育て世代を対象に、妊娠中の健康管理やこどもの成長過程、定期健診情報、妊娠・子育て生活のアドバイス等の情報をタイムリーに配信する「こうべ子育て応援メール」の中で、妊婦歯科健診を啓発。

(2) 令和元年度取り組み

母子健康手帳交付時に妊婦歯科健診の受診勧奨を引き続き実施するとともに、妊婦や子育て世代を対象に、引き続き情報提供を実施。

3. 乳幼児期（0～5歳）

目標：こどもの歯を守り、かむ・話すなど口の機能を育てる

1) 家庭、地域における取り組み

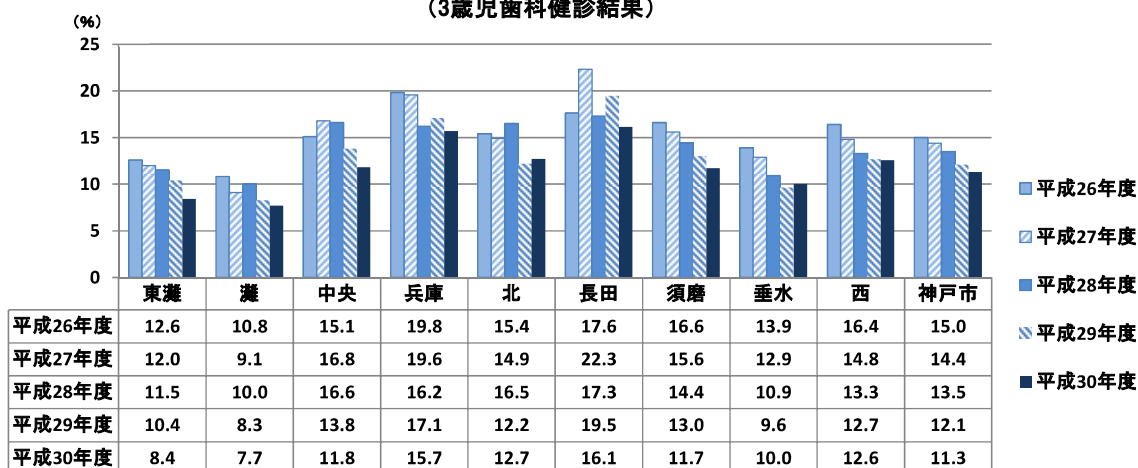
(1) 平成30年度の実績

① 3歳児歯科健診

歯科健診や歯科保健指導を通じて、むし歯予防や口腔機能の健全な育成を促進。

- ・むし歯有病者率 11.3%（29年度 12.1%）
- ・一人平均むし歯数 0.36本（29年度 0.4本）
- ・むし歯をもつ児における一人平均むし歯数 3.19本（29年度 3.28本）
- ・咬みあわせの異常の割合 22.1%（29年度 22.4%）

区別にみたむし歯をもつ児の割合
(3歳児歯科健診結果)



神戸市保健事業概要

② フッ化物塗布（1歳6か月児および3歳児歯科健診時に実施）

むし歯を予防するには、フッ化物を利用して歯質を強化することが効果的であるため、1歳6か月児・3歳児歯科健診時に、希望者に有料でフッ化物塗布を実施。

- ・1歳6か月児：8,846人／11,352人（77.9%）
- ・3歳児：7,275人／11,911人（61.1%）

③ 2歳児むし歯予防教室

幼児期のむし歯予防のため、保護者の要望に応じた個別指導を実施。

④ 地域における歯科健康教育

児童館や子育て支援サークルなどで、むし歯予防などの健康教育を実施。

児童館すこやかクラブ：136か所 3,707人、子育て支援サークル：94か所 2,390人

(2) 令和元年度の取り組み

引き続き、乳幼児健診や希望者へのフッ化物塗布とともに歯科健康教育を実施。

2) 保育所（園）、幼稚園における取り組み

(1) 平成30年度の実績

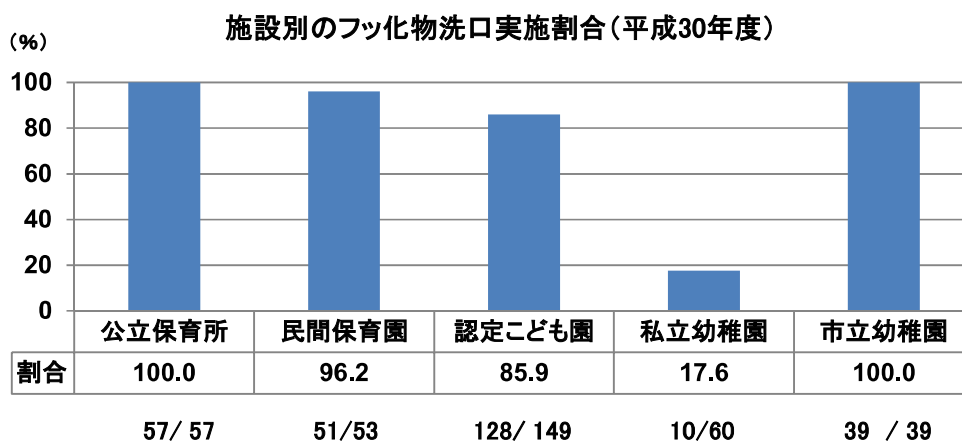
① 歯科健診

保育所（園）、幼稚園において歯科健診を実施するとともに、必要に応じて受診勧奨を実施。

受診者数：公立保育所 5,325 人、民間保育園・幼保連携型認定こども園 18,764 人、市立幼稚園 1,655 人

② フッ化物洗口の実施

むし歯予防を目的として、保育所（園）、幼稚園に通う4歳、5歳児クラスの希望者を対象に、フッ化物洗口を実施（285施設、14,700人）。



神戸市こども家庭局、神戸市教育委員会 調査

(2) 令和元年度の取り組み

引き続き、歯科健診を実施するとともに、フッ化物洗口について理解を深め、安全に実施するために、園長や職員などを対象として研修会を実施。あわせて、保護者などを対象に、歯科口腔保健に関する啓発を実施。

4. 学齢期（6～17歳）

目標：むし歯を予防し、歯と口の健康づくりの基礎をつくる

（1）平成30年度の実績

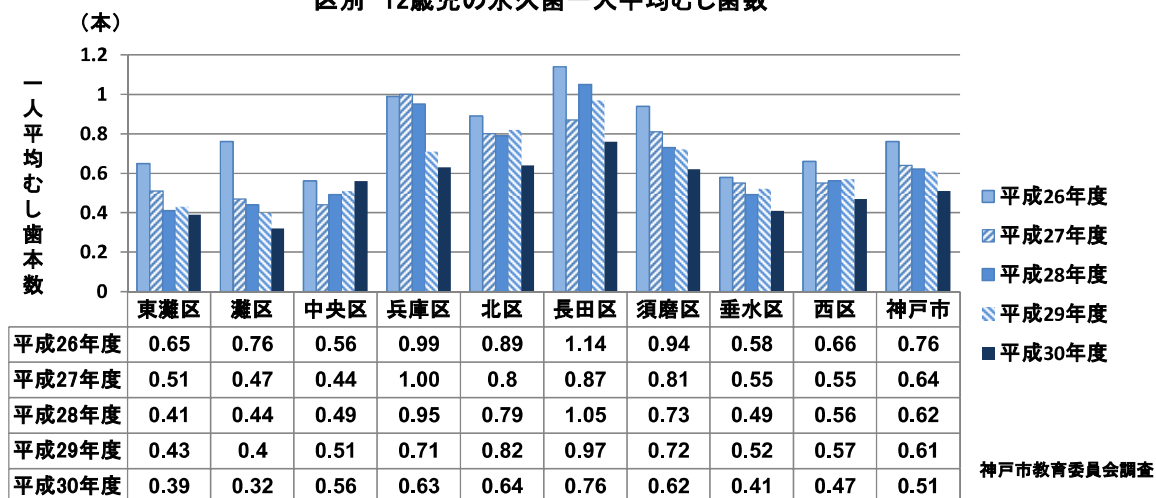
① 定期健康診断における歯科健診の実施

歯科健診結果に基づき、適切な予防処置、治療勧告や個別指導などの事後措置を実施。

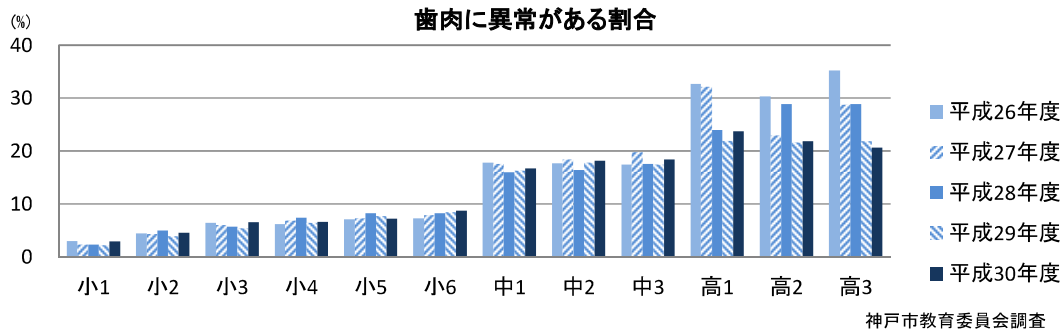
受診者数：小学校 75,070 人、中学校 32,971 人、高等学校 7,055 人、特別支援学校 953 人

12歳児一人平均むし歯数：0.51本（29年度 0.61本）

区別 12歳児の永久歯一人平均むし歯数



歯肉に異常がある割合



② 学校保健委員会*の中で学校歯科保健をテーマに実施

学校保健委員会において歯と口の健康づくりをテーマにするなど、学校・家庭・地域が連携して学校歯科保健に取り組むよう働きかけた。

実施数：小学校 14 校（164 校中）、中学校 7 校（85 校中）

*学校保健委員会：学校における健康に関する課題を研究協議し、健康づくりを推進するための組織。校長、養護教諭・栄養教諭・学校栄養職員などの教職員、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、保護者代表、児童生徒、地域の保健関係機関の代表などを主な委員とし、保健主事を中心となって運営。

③ 学校歯科保健研修会の開催（10月11日）

「う蝕は完全に予防できるのか？」をテーマに開催。学校における歯・口の保健指導にあたって、フッ化物の効果の説明や児童が歯と口の健康づくりを実践できるよう具体的な指導方法について、教職員が研究を実施（118人参加）。

④ よい歯の表彰式の開催（1月31日）

歯科口腔保健の取り組みについて優良な学校および児童を表彰することにより、歯科口腔保健意識の向上を図った。

優秀校園表彰 84校園、個人表彰（小学6年生）175人

⑤ 歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクールの開催、学校給食だよりでの啓発

・図画・ポスターコンクールを実施。入選者49人

・学校給食だよりの6月・10月号に、歯と口の健康づくりに関する啓発記事を掲載。

（2）令和元年度の取り組み

引き続き、学校での歯科健診、学校保健委員会、学校歯科保健研修会、よい歯の表彰、ポスターコンクールなどを実施していくことにより、むし歯や歯周病の予防や食育の視点も踏まえた啓発などを行い、生涯における歯と口の健康づくりを推進。

5. 若年期（18～39 歳）

目標：歯と口の健康づくり習慣を確立し、歯周病を予防する

（1）平成 30 年度の実績

① 歯周病検診

35 歳と 41 歳以上の方を対象に、各区役所等で歯周病検診を実施。

平成 30 年度歯周病検診の 35 歳の受診者数は 6 人

（35 歳と 41 歳以上の受診者 275 人）

② 妊婦歯科健診（再掲）

歯周病等の検査及び保健指導を実施。

③ 大学生無料歯科健診の実施

・区歯科医師会が実施主体※となり、地域の歯科医院（228 か所）で受診可能な大学生の無料歯科健診を実施。（14 大学、281 人受診）

・兵庫県が兵庫県歯科医師会と協働して、西区の 5 大学において歯科健診を実施。

（5 大学、1,068 人受診、受診率 10.5%）

新規

（2）令和元年度の取り組み

各区役所等での歯周病検診を 11 月に実施するとともに、引き続き、区歯科医師会が実施主体となり、大学生を対象に無料で歯科健診を実施。

（参考）

※大学生の無料歯科健診については、

平成 22 年度から灘区歯科医師会が開始。

平成 26 年度から東灘区歯科医師会が開始（灘区と合同）。

平成 26 年度から北区歯科医師会が開始。

平成 28 年度から中央区歯科医師会が開始（灘区、東灘区と合同）。

平成 29 年度から須磨区歯科医師会が開始。

平成 30 年度から垂水区歯科医師会が開始。

平成 31 年 5 月現在、市内 6 区の区歯科医師会が実施。

6. 壮年期 (40~64歳)

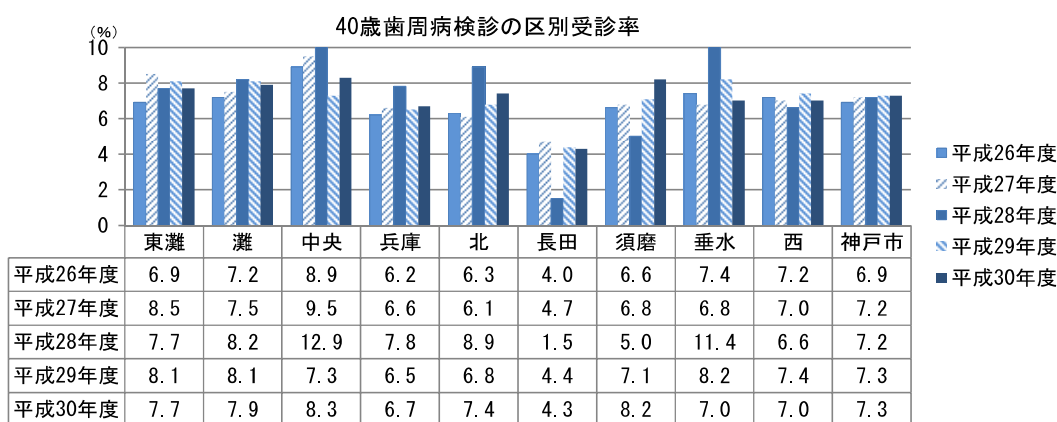
目標：歯の喪失を防止するため、歯周病を予防し、よくかんで健康増進

(1) 平成30年度の実績

① 歯周病検診

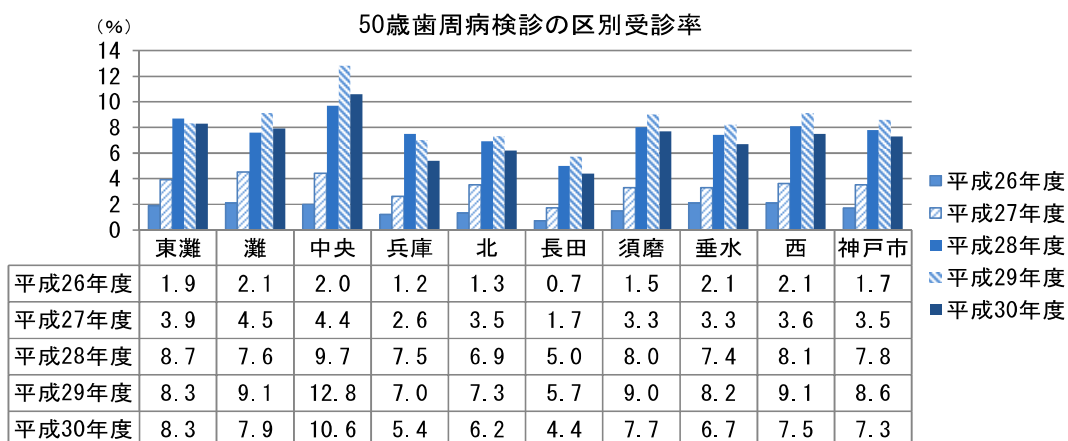
40・50歳の節目年齢を対象に、身近な歯科医療機関で受診できるよう歯周病検診を実施。

- ・40歳歯周病検診の受診者数：1,501人／20,422人（受診率：7.3%）
- ・50歳歯周病検診の受診者数：1,602人／21,932人（受診率：7.3%）
- ・直営歯周病検診の受診者数：275人（35歳と41歳以上） 区役所等で受診が可能。



別受診率：歯科医療機関の所在区別の受診者数 / 居住区別の発送数

神戸市保健事業概要



別受診率：歯科医療機関の所在区別の受診者数 / 居住区別の発送数

神戸市保健事業概要

② 歯周病検診の受診勧奨（広報紙KOB E4月号、2月号）

検診制度を紹介する「神戸けんしんガイド」を作成し、歯周病検診について啓発。

③ 特定健診・特定保健指導

国の見直しを受け、健診問診票に「食事をかんで食べる時の状態」の質問を追加。

(2) 令和元年度の取り組み

歯周病検診の受診率向上に取り組むとともに、引き続き特定健診・特定保健指導を実施。

7. 高齢期（65歳以上）

目標：歯の喪失を防止し、口の中を清潔にして、口から食べて活力維持

（1）平成30年度の実績

① 総合事業での口腔機能の向上プログラム

地域拠点型一般介護予防事業に歯科衛生士を派遣し、口腔機能向上の重要性を啓発。口腔の健康を保つための講座や体操など、延べ224回実施。

10月より開始したフレイル改善通所サービス（対象：要支援1・2、事業対象者）では、教室に歯科衛生士が定期的に出向き、口腔機能向上の講話を実施。市内11か所にて、個人の状態に応じたアドバイスやプログラムを提供。また、フレイル予防支援事業（対象：65歳以上の方）では、フレイル予防など、口腔機能向上の重要性を啓発。**新規**

② 後期高齢者（75歳）歯科健診の実施

歯・歯肉の状態や口腔機能等をチェックし、歯と口の健康を保つことにより全身の健康づくりをめざして、口腔機能低下の予防と肺炎等の疾病予防を目的とした健診を実施。受診者数 1,052人／17,315人（受診率：6.1%）

③ フレイルチェックの実施

加齢による心身の活力の低下で介護に移行しやすい状態や、咀嚼、嚥下などの口腔機能の低下を早期に発見し、生活習慣を直す機会を提供するフレイルチェックを実施。

平成30年度は、65歳および前年度にフレイルチェックを受けた66歳の国保加入者を対象に、特定健診集団健診会場と薬局（平成31年3月末：市内380か所）、イベント等において実施。合計2,638人（65歳1,177人、65歳以外1,461人）

④ オーラルフレイル対策 **新規**

滑舌の悪さ、食べこぼし、わずかなむせ、噛めない食品が増えるなど、口のまわりのささいな衰えに早期に気づき改善することで、フレイル予防、健康長寿につながることを目的に「オーラルフレイル対策」を実施。

啓発イベント（8回、651人）および歯科医師・歯科衛生士を対象とした研修会（4回、160人）を実施。



オーラルフレイル啓発イベント

⑤ 広報啓発

しあわせの村だより4・5月号、1・2月号にて後期高齢者（75歳）歯科健診受診を勧奨。

（2）令和元年度の取り組み

総合事業での口腔機能向上プログラム、後期高齢者（75歳）歯科健診の実施、フレイルチェックなどを引き続き実施。

オーラルフレイル対策では、平成30年度に薬局等でフレイルチェックを受けた65歳と66歳の市民を対象に、機器を使ったオーラルフレイルチェック（咀嚼能力や嚥下機能等の口腔機能の評価）を行い、必要に応じて保健指導等を実施。**新規**

後期高齢者歯科健診では、国が示したマニュアルに沿って改定。